'78・3月　第3号

微明

鉾田町商工会青年部

発行責任者
青年部長
山崎　健一

微　明

引き締めようと思うなら、しばらく拡張させておくに限る。弱めようと思うなら、しばらく与えておくに限る。この道理を知ることを「微明」という。柔弱は剛強に勝つものなのである。

豊かな街づくりを現地に見る

長野県駒ヶ根市

行政・地域住民の――協調と強いバックアップ――

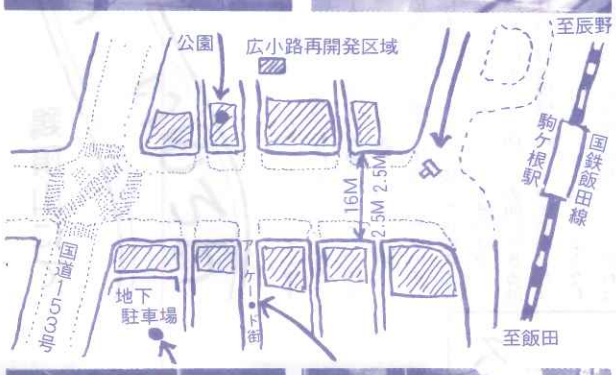
私たち青年部は、より良い商工業をめざすために、毎年いろ〳〵な面での先進的な地区を視察しております。

今回（五二年度）の視察では、鉾田町での都市計画の推移を頭において「商業地域のあり方」を研究する意味も含めて、行政、地域住民の協調とバックアップで行なわれた長野県駒ケ根市の再開発事業の数々の施設の実状を見ることにしました。

視察において、私たちはまず、安心して、ゆとりを持って買物の出来る街という印象を受けました。古くからこの街では国道ぞいにポプラを配した歩道を創る等、消費者に対する配慮ある商店街作りの思想が有ったようです。今回の再開発事業でも狭かった道路ぞいの商店街を、道路拡張に伴っての歩道設置や公園、地下駐車場、全面アーケード街等の、施設作りに消費者への多くの配慮がうかがえます。

昭和四〇年代に行なわれたこの事業では、同市内の駅前の再開発、近隣する大都市への大資本の進出等、商圏の大きな変化があり、商業的な面で現在の実状に即しない点が出て来ていますが、公園、歩道、車の入らないアーケード街等の安心してゆとりを持って買物の出来る施設は今後も生かされるでしょう。

このような再開発による商店街づくりにはむずかしい点もありますが「豊かな町づくり」の一翼をになうにはかかせないことと考えます。



町長を囲んで……

七月二十三日、我々商工会青年部昭和五十二度事業計画の中の一つとして町執行部との対話の機会を得た。

町側より、塙町長、伊東企画開発課長、それに白井商工広報課長の出席をいただき、我々商工会青年部員十六名の参加で開かれた。前もって私達は部員間による討議をし、最終的には次のようなテーマとすることになり「町営駐車場（元警察署跡）に関する件」、「我々商工業と農業」、「我々商工会青年部に対する意見と希望」、「国鉄鉾田新駅と都市計画、中心商店街との結びつけ」について各自意見をもちよることと決定した。

当日は先づ、町長よりお話があったあと第一の議題である「町営駐車場の件」へと入りました。

その中で我々青年部員の考えとして、「駐車料金の問題、それに駐車場閉鎖後の利用」の二点について町当局より現在の利用状況を説明いただいた。駐車料金に関しては「町内にある別の駐車場料金と同じでは、公的機関でいわゆる営理事業を目的とするものではないのだから駐車料金の価格が下がる余地はないものかどうか。」という意見がだされた。これについて町側より「現在の駐車料金は他地区をもあわせ検討し、この価格に決定した。駐車料金に関しては機関に戻ってから内部で検討したい。又駐車場閉鎖後の利用については夜間の駐車車両の整理、その他の点などから、現時点では無理である。」との結論でした。次のテーマである「商工業と農業、青年部に対する意見と希望」については、農業も町の重要なウェイトを占める。しかしだからといって商工業をおろそかにしているわけではない。これからの商店街活動には若い力が必要です。大型店問題、商店会活動には皆さんの若いエネルギーを起爆剤にしてほしい。私達の力でできるものは後押ししたい。」と激励され心強く感じられました。最後の「国鉄鉾田新駅と都市計画、中心商店街との結びつけ」は現在、企画開発課長を始め関係の方々が進むべき鉾田の未来像をえがきつつ進行中であり、機会をもうけて説明したいとのことでした。

これらのテーマを町長、伊東課長、白井課長お三人に時を忘れるかのように夜遅くまで我々部員と質疑応答の形で続けられました。又自然的に部員より「もっと機会を持っていただきたい。」と意見がだされ町側からも「時間が許せばもっと機会を持ちたい。」との答えをいただきました。

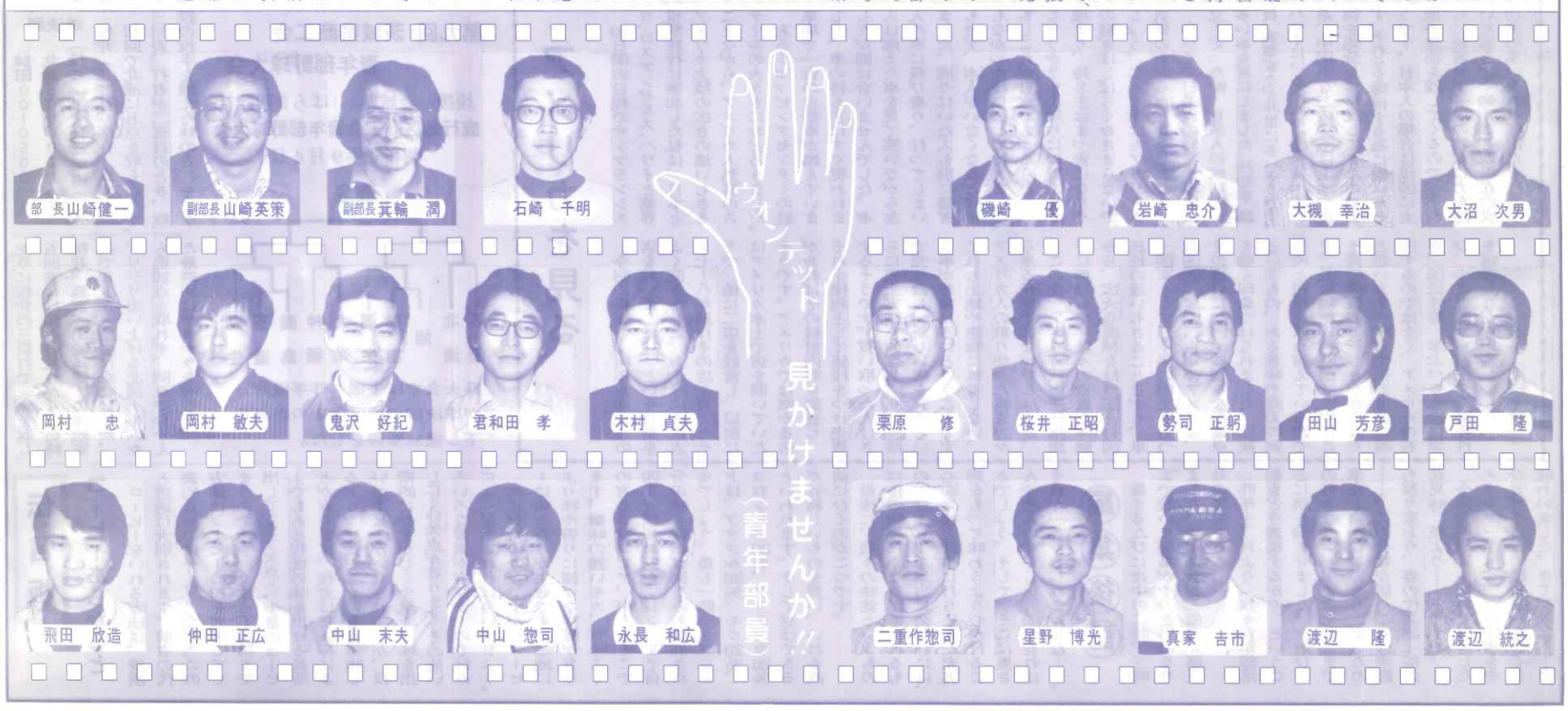
最後にこの日の対話を終えて、感じたことは「立場・主義・主張が違っても、話しあいによる意見の交換をし、学ぶべき点は学び、自分の知識として一つでも二つでも得て、明日からの生活に役立てる。それにより我々商工会青年部をもりあげ、商工会をもりあげる。又他方では一部落民として、一町民として地元鉾田を、そして茨城を……。

講演会に学ぶ!!

この講演会で、私が深く印象に残っているのは、なんて迫力のある話し方なんだろうと思った事でした。やわらかく話したかと思うと、急に"ガァー!"とものすごく気迫に満ちた話し方になり我を忘れて話に没入してしまい終った時には、ホッと感じる位い講師に引き寄せられて気を他に移す事もなく数時間が過ぎました。内容は全般的に我々に参考になる事ばかりでしたが特に従業員に関しての話しはつくづく関心させられました。たとえば社員採用において試験の一部に体操をさせたり、何人かのグループに分けてある一つの物を与えて各グループごとに何をするか見たり又その中でだれがリーダーシップを持ってまとめるかを調べたりして、この事に大きなウェイトをおいて採用の可否を決定しているそうです。ここで採用された新入社員は教育の場で数日間何回も何回も大声を出す練習をさせられ自己の開発、啓蒙をされてから仕事を実際にする様になるとの事でした。しかしこの仕事の場でも先輩達が毎日朝礼をしてどうしたら売れるかを話し合ったりし、各自が反省したり又売上増に向って努力しているので気がゆるむ事がなく常に毎日を過すようになるそうです。この様な中から一生懸命仕事をしようと思う社員が現われるようになり自主的に十一時、十二時迄も仕事をし、売上を伸ばす事を考え努力する様になるそうです。

私は社員教育というのは難かしいものだと思っていましたがいとも簡単に進めているのにおどろいてしまいました。これは会社のなせるわざだと思いますが経営者の意識の違いも大きな要因となっているのではないでしょうか。この意識は大型化した会社ほど強く感じられますが私達はどうでしょうか。私は講演が終った時一種の不安感が現われてしまい次の朝より毎日朝礼をする事にして現在もすすめております。初めはなかなか思う様に行なえず今なお、私自身の勉強不足も伴なってなかなかこれだと云う所迄進んでいませんが朝礼をする事により社員の意識は良くなって来ています。ここで前に述べた勉強不足ですが社員を引張って行くにはいろ〳〵と学び又講演会などの場に出来るだけ出席し不足分を補っていかなければ途中で挫折してしまうのではないでしょうか。今度の亀宗営業部長の根岸さんの講演はやる気を起こさせる素晴らしい話であり、私にとって一つのステップになれました。

（山崎　英策）



働らく仲間と共に

ハイキング と ダンス と スキー

すべって ころんで

2月15～16日

鶏頂山にて

去る二月十五日（水）～十六日（木）に夜行日帰りで、栃木県鶏頂山晃晴ゲレンデにおいて商工会青年部主催の「恒例スキーの集い」を行ないました。鬼怒川と塩原を結ぶ日塩有料道路のほぼ中間にあり、すぐ近くには天然のアイススケート場や、スノーモービルのレース場もあり、数少ない日帰りも可能なスキー場の一つです。

今回の「スキーの集い」は木曜日を選び、鉾田町商工会に加入されているお店の従業員さんを主体に参加者を募集致しました。総勢四十余名の参加者で、半数近くは初心者でしたが、部員の指導が良かったのか（？）午後からは一人でゲレンデを滑降してくる姿があっちこちで見られました。天候にも恵まれ雪質も最高で、さらに平日であったためにスキーヤーの数も少なく非常に快適なスキーを楽しめました。

ところでスキーの楽しさは滑ることにあるのは勿論ですがそれに加えて、雪できれいにメイクアップをほどこされた山や木々、それに大地、それらの自然の神秘的な美しさは一段と魅力的で、誰でもすぐにとりこになってしまいます。今回も例にもれず、頂上付近から望む雪の日光連山、赤城山、棒名山は太陽の光をいっぱいに受けて銀色に輝き、まるでシルクのイブニングドレスを裾った貴婦人のように静かに、気高くそびえ立っていました。積雪の表面にできる波形の模様を知っていますか。ちょうど砂丘にできる波形のようなものですが光の加減によってそれはきれいに見えます。樹氷もありますね。夏の山は力強く男性的ですが、冬の山は繊細で女性的な美しさがあります。

それでは最後に、今年の「スキーの集い」が何事もなく無事終らせて頂き、この企画、運営に協力して下さいました方々に感謝を致し、来年の「スキーの集い」には、より多くの方々に参加して頂けますことを青年部一同心待ちしてペンを置かせて頂きます。参加者の皆さんお疲れさまでした。

〈知事との対話〉

鉾田町商工会青年部は去る６月30日，知事会館において知事との対話を行ないました。知事は我々の町，鉾田の出身ですので，親しみが感じられ，緊張もせずになごやかな雰囲気のうちに，お茶などを交えながら色々な問題について話し合うことができ，大変有意義な１日でした。

スキーへの新たな思い

水郷ビル　酒井洋治

一月の初旬に、商工会青年部の方から、「スキーをやってみないか」とさそわれた。

私としては三年間のブランクがある為、少々不安であったが、若さとバカを持ち前にやる気になってしまった。申込用紙が来た時などは、その日の内に参加を申し込んでしまう程で、期待と不安の毎日であった。

当日は夜十時三十分に鉾田を後にして、一路鶏頂山へと向った。初めてのバス車中泊、明日はこういう具合に滑ろうなどと考えながら夜明けを迎えてしまった。私は夜明けと共にスキーをかついで山を登りはじめた。三年ぶりにスキーをつけた感触と白い景色に見とれていた。滑りはじめて三年間のブランクは余り感じられなかった。（スキーが良い物の為だろう）そうこうしているうちに、スキーをかついで登ってくる者が多くなってきた。

初心者の方々にも青年部の美男子方が臨時スキースクールを開校して手取り足取り、ボーゲンを教えていた。滑れる者は我先にリフトにまたがり、頂上を目ざした。私も一面の銀世界を見ながら滑り下りた。十一時ごろから天気は晴天となり、汗が出る位だった。ゲレンデでは青年部のスキースクールから卒業した人達がリフトに向かっていた。午後二時三十分迄白銀の世界を満喫して多少の疲れを残し帰路鉾田へと向った。

私達は日ごろ雪及び自然に接する機会が少なくこのような非常に楽しく、又健康的なスキーツアーには大賛成です。又来年も楽しみにしております。商工会青年部の方々ごくろうさまでした!!

♬♪リズムに合わせて

我が商工会青年部において、昨年に引き続き社交ダンス講習会を去る十月二十日より「毎週水曜日夜七時より」八回に亘り、「講師に、石山先生を招いて商工会大会議室を使用して開催致しました。

参加延べ人数は、男子二三二名、女子一三三名の計三六五名でした。ここで我々は面白い現象に気付きました。昨年は女子が多く、男子のパートナーが少なく、四苦八苦しましたが、今回は数字の示すように全く逆の傾向に成りました。これはいかに？　これも世の男性が夜の巷に足を運んではダンスの出来ないしらけ鳥で、ただひたすら痛飲するだけでみじめな思いをしている様相がありありと伺われるのではないだろうか。そこで「ルンバ、ワルツ、タンゴ、ブルース」など種々なステップを、ユーモラスに又、やさしく手解いて頂きました。「これだけ習えばもう安心、何処へ飲みに行こうとも、今迄とは一味違うんだぞ」と思った男性は少なくないはずである。締くくりとして、X・マスをかね、ダンスパーティを開きましたところ講習会での成果が充分に発揮され、より楽しく、かつ華やかに行なわれました。

講習会、ダンスパーティと長期間に亘り多数の参加を頂き、この企画が盛大に出来ました事を厚く御礼申し上げます。

ベスト4進出!!

商工会野球にて

私たち商工会青年部が楽しんで参加出来るスポーツを目ざして臨んだ第九回茨城県商工会青年部野球大会の鹿行地区予選は、昨年九月四日（日）に晴天の中、牛堀町営グランドで行なわれた。

十チームが熱戦をくりひろげたこの大会で、我が鉾田チームは一回戦で旭チームを12－3（五回コールド）の大差で下し、又、二回戦で潮来チームに幸運な不戦勝にてベスト4へと進出した。

続く北浦チームとの準決勝では中盤の逆転を守れず押し切られたがこの成果は、次の大会で充分に発揮されるでしょう。

戦績（五回コールド）

一回戦　鉾田 0－8－2 12　旭 1－0－0－1 3（投）二重作（捕）勢司（三）真家（二）林

初回旭チームの一点に奮起した鉾田チームは、三回に打者一巡の猛打で試合を決する八点をあげ、守っても二重作の力投で相手チームを三点に押え五回コールドで飾った。

一回戦　鉾田 不戦　潮来 0 7

幸運な一勝でした。

準決勝　鉾田 0－0－0－5－0－0 6　北浦 5－0－0－0－0－1－1 7（投）二重作（捕）栗原（三）桜井（二）林、桜井、真家

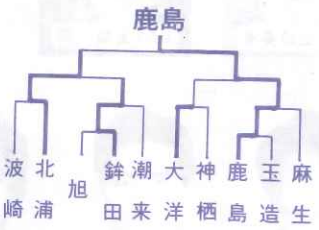
初回で北浦に五点を取られたが、三回表、打者が二巡目のとき、軟投の投手を捕えた林の安打を足がかりに桜井の三塁打で一点を返し、五回表には相手の乱れから、石崎、桜井、真家、山崎（健）の連続安打で6－5と逆転に成功したが、ジリジリ追い上げる北浦チームから追加点を取れず、同点でむかえた最終回にサヨナラを喫した。

第九回 茨城県商工会 青年部野球大会

後援　茨城県 いばらき新聞社

鹿行地区商工会青年部野球大会

昭和52年9月4日



県大会では牛堀（昨年優勝）が準決勝で地区代表の鹿島を下し連続優勝をした。

交歓会を企画して

青年部は、部員間のより一層の親睦を深める為に、二ケ月に一度のペースで自費参加による交歓会を行なっております。この交歓会における「部員間の対話」は、自然話の内容もやわらぎ、幅広いものとなります。毎月の例会などで提出された議題を審議する時などは、どこか固さがとれませんが、所変われば何とやら……社交場にと一変します。いろいろな業種の集団ですので、行動力にものを云わせた、知識欲旺盛な部員達が、型にこだわることなく、率直な意見の交換をしています。奥深い貴重な体験談、趣味の話、もちろん仕事の話など……私など経験不足の身においては、大いに学ぶところがあり、今後の参考にと思っております。次代を担う我々青年部は、この町を、さらに発展させる義務があると思います。さあ、あなたも我々と一諸に活動してみませんか！

連絡先　鉾田町商工会　二－二三四六　崎山まで

ハイキング　S 52.9.22(木)　場所　勿来、五浦

アメリカを見る

10日間の日程でサンフランシスコ、ロスアンゼルス、ハワイと業界視察旅行に参加した私は、日本とアメリカ大陸の広さの違いもさることながら、アメリカ人気質のスケールの大きさにおどろきました。

あるショッピングセンターの駐車場で一台の自動車が燃えていました。車の持ち主はすぐ現われましたが間に合いませんでした。本人は燃えた車を見て笑いながら友人の車に飛び乗り、行ってしまいました。周りにいた人も別に騒ぎもせず、本人がいなくなると何事もなかった様に去って行きました。もしこれが日本であったらどうでしょうか？車の周りには野次馬で埋まり、持ち主はまっ青になりその騒ぎはしばらくおさまらないでしょう。こんな所にもアメリカ人気質のおおらかさを感じました。

ハワイで日系人の経営する店に立ち寄った時、日系人の成功者が多い事を耳にしました。州知事、議員、実業家など非常に多いそうです。ハワイにいる白人や黒人、スペイン系、中国系などの多くは土地や建物を処分して移民してきたのですが、それらを獲得する為に働いたそうです。日本人の場合は母国に土地や建物を残してくるので、それらに執着せず子供の教育に力を注いだ事によく働くことが現在の成功者の多い大きな理由だそうです。

今回の視察で「何年か前にこの店を買いました。」という言葉をよく聞きました。お土産店の主人も七～八年前にその店を買ったそうで、他に二店を経営し、以前にはアメリカ本土で店を開いていたそうです。アメリカでは儲かる店があればその経営内容を調査し、それを権利として値段をつけ売買するそうです。買い取った人はさらに売上実績を伸ばし、高い値段で売り渡し、新しい店を買うという事が非常に多いということです。これも土地や建物に執着しない、アメリカ人の割り切った考え方から来る発想ではないでしょうか。

この度、アメリカ西海岸研修旅行に参加して、数々の貴重な体験から、広大な面積を持つ国との国民性の違いもさることながら、単一国家として二千年の歴史をもつ我国と、建国二百年のアメリカ、その違いに起因する様々な相違点を強く印象づけられました。伝統というもの、ある意味で両刃の剣、長所と短所を兼ね備えている訳です。温故知新、古い伝統の中にこそ真の価値有る新しさが在るのだと思います。唯、先祖の遺業に埋没するのではなく、アメリカの若さ、国民性等、学ぶべきものは学び、小さな殻から脱皮する必要性を痛感しながら帰国しました。

（山崎　健一）

伝言板

コーヒーあらかると

コーヒーをいれる方法は、浸漬と透過に大別されます。前者の代表的なものはサイフォンです。この方法はコーヒーの粉を煮沸してしまうので味を悪くする不純物まで出してしまう欠点と、少量のコーヒーでもある程度の味を出せる長所とが有ります。後者は布袋等によるドリップ式でこくの有る美味しいコーヒーがいれられますが、技術的にむずかしく少量では味を出しにくい欠点が有ります。その他いろいろな要素が有りますので好みにより選択されれば良いでしょう。

次に材料のことですが、コーヒーは味と香りが生命です。産地により味や香りに様々な特徴が有ります。酸味の強いモカ、甘味こくの有るコロンビア、etc……そこで四～五種類の豆をブレンドして自分の味を作れば楽しみも倍加されるでしょう。最も一般的なブレンドは、ブラジル30%、モカ20%、コロンビア30%、グァテマラ20%といわれます。そして豆はできるだけ新しいものを買い、いれる直前にひくのがこつです。

最後に、我々の味覚というものは体の状態にかなり影響されるもの、コーヒーを本当に楽しむには、心の余裕と仕事に打ち込んだ充実感をもって味わうよう心がけることでしょう。そして、そこに奥さんや恋人のやさしい笑顔が有ればそれが一番かもしれませんね……。

編集後記

集まるたびに夜中の二時、三時まで続いた編集がやっと形になりました。青年部会報〝微明〟第三号の誕生である。

昨年十二月より〝我々青年部活動をどう表現するか!!〟ということに頭を悩ませました。夜遊び？の好きなメンバーでよくここまで来たと自画自賛したり、貶したり……。この会報が届くころは季節も移り変わり、春の代名詞〝桜の花見時〟花より……ですね。

今回会報編集を初めて担当したスタッフ三名は、一つの仕事をやりとげることの難かしさをとくと味わいました。さて結果は……？